

D-SWATII（化粧カバー付き）施工要領書

<設置基準書より抜粋>

SISOLAR 

安全の為に必ず守ること

誤った取り扱いをしたときに生じる危険とその程度を次の表示で区分しています。

 警告	作業を誤った場合に工事作業員または使用者が死亡や重傷の可能性のあるもの
 注意	作業を誤った場合に工事作業員または使用者が傷害または家屋・財産などの損害の可能性のあるもの

図記号の意味

 禁止	 分解禁止	 アース線接続	 指示に必ず従う	 感電注意
---	---	---	--	---

 警告	
 太陽電池モジュールを分解しない。 火災、感電、けがの原因になります。	 太陽電池モジュール、架台、取付金具、ネジなどは説明書に従って確実に取り付ける。 落下や飛散の原因になります。
 感電、ショートに注意する。 ※太陽電池モジュールには遮光シートをかけ、接続が終わるまではとらない。	 配線工事途中の電線の先端は、必ず絶縁処理をする。 火災、感電の原因になります。
 太陽電池モジュールのガラス面にのらない。物をのせない。 やむをえず太陽電池モジュールの上で作業する場合は必ず太陽電池モジュールのフレームの上で作業する。 ガラスが割れるなど、破損の恐れがあります。	 太陽電池モジュールは必ずアース工事を行う。 (C 種または D 種接地工事) 火災、感電の原因になります。
 雨や霧、雷で屋根が濡れている場合は施工しない。 滑って落下すると死亡、けがの原因になります。	 工事部品は必ず付属品または当社指定品を使用し、説明書に従って確実に取り付ける。 落下、感電、雨漏りの原因になります。
 太陽電池モジュールのバックシートを傷付けない。 火災、感電の原因になります。	 設置工事作業中は安全帯（命綱）、腰袋、防護手袋を着用する。落下防止用の足場を作る。 落下事故防止、感電防止のため必ず守ってください。

 注意	
 太陽電池モジュールは、バックシートに突起物などが触れない場所に設置する。 誤って太陽電池モジュールのバックシートが傷つくと、火災の原因になります。	 工事中に屋根を破損した場合は専門の屋根業者に修理を依頼する。 落下、感電、雨漏りの原因になります。
 太陽電池モジュールに積もった雪が落ちてもけがや器物破損のないように処置する。 太陽電池モジュールを設置した屋根の雪は、通常の屋根より一気に落雪しやすくなります。	 太陽電池モジュール設置用の部材、部品の取り扱いには十分注意する。 けがや器物破損の恐れがあります。

確認事項

【1】設計・施工に関する注意及び確認事項

■新築屋根への取り付け

屋根葺き施工と同時作業になる場合は、屋根葺き施工業者と十分に打ち合わせを行ってください。

■既築屋根への取り付け

築年数や地域により、屋根材の耐久性が劣化している場合があります。屋根材に十分な強度があることを確認し、上を歩くときは破損しないよう十分注意してください。

- 作業中に屋根材を破損した場合は必ず新品と交換してください。雨漏りの原因になるのでコーキングなどを使用して修理を行わないでください。落下または建築物損壊の原因になります。

■新築屋根・既築屋根共通

- 部材置場を十分に確保し、部材の破損、損傷に注意してください。屋根に部材を置く場合は落下による破損、損傷にも注意してください。
- 屋根材の種類によって設置方法が変わります。また、架台金具類と屋根材が適合しない場合は、無理に設置せず、屋根材にあった架台金具を使用してください。
- 部材の設置には必ず付属のネジ、ボルトなどを指定の数を守って使用し、緩みや締め忘れのないように施工してください。
- 作業中に屋根材を破損した場合は必ず新品と交換してください。また、屋根葺き材を破損した場合は専門の屋根葺き施工業者に修理を依頼し、適切な処理を行ってください。
- 製品、部材、及び付属品などは厳重に管理し、紛失しないように注意してください。
- 本基準書は、屋根材・野地板・垂木などの屋根構造強度は範囲に含まれません。屋根の構造強度は屋根仕様・工法によって異なりますので、別途専門的な知見から十分な強度があることを確認してください。

【2】作業上の安全に関する注意及び確認事項

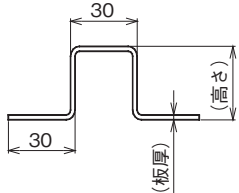
地上高2m以上、及び落下、墜落の恐れがある場所で作業するときは、「労働安全衛生規則」に従って作業してください。また各種関係法令に従って作業してください。

据付け、取り付け作業中は、安全帯（命綱）、作業保護具を必ず着用、使用し、落下、墜落事故のないように注意してください。

- 屋根上で作業するときは、底が滑りにくい靴を履いてください。
- 作業中に作業範囲内及びその近辺（特に軒下周辺）に第三者が立ち入らないように注意してください。また工事資材以外のもの（自動車、自転車、植木など）を置かないでください。
- 破損、汚損しやすい物がある場合は退避させる、養生するなどしてから作業してください。
- 機材、工具などは使用方法をきちんと守ってください。
- 作業足場などを設置して落下、墜落を防止してください。
- 地上でできる作業は、事前に地上で作業してください。（仮組など）
- 部材を扱うときは、作業用の手袋などを着用して手を保護してください。

設置条件（架台共通）

1 設置条件

項 目		条 件										
野地板		構造用合板 $t=12\text{mm}$ 以上又は、同等以上の強度のものであること。										
		バラ板 $t=11\text{mm}$ 以上、且つ幅 120mm 以上且つ隙間 5mm 以下のもの。										
		木毛セメント板 $t=25\text{mm}$ 以上のもの。										
		硬質木毛セメント板 $t=15\text{mm}$ 以上、且つJIS A 5404に規定するHW（木質原料）の最大長さ 450mm 以下、製品のかさ比重 0.7 以上）とする。										
		高圧木毛セメント板 $t=15\text{mm}$ 以上のもの。										
		硬質木片セメント板 $t=12\text{mm}$ 以上のもの。										
		OSBボード $t=12\text{mm}$ 以上、且つJAS認定『構造用パネル』3級以上とする。										
		パーティクルボード $t=12\text{mm}$ 以上、且つJIS A 5908に規定する種類のもので、且つ接着剤にフェノール又は尿素メラミンを用いたものとする										
		中密度繊維板（MDF） $t=12\text{mm}$ 以上、且つJIS A5905に規定する、曲げ強さ区分/30タイプ（曲げ強さ 30N/mm^2 以上）、接着剤区分/M（ユリア・メラミン共縮合樹脂）・P（フェノール樹脂）タイプとする。										
		防水石膏ボード $t=15\text{mm}$ 以上のもの。										
		火山性ガラス質複合板 $t=15\text{mm}$ 以上、且つJIS A 5440に規定する分類HⅢとする。										
木製垂木（木造）		幅 $38\text{mm}\times 40\text{mm}$ 以上、 455mm 以内の間隔で垂木が設置されていること。 又は、同等以上の強度のものであること。										
鋼板製垂木（鉄骨）		基本的に鋼板製垂木の有無は問わない。										
		金属製母屋上に設置されている場合の垂木サイズ・間隔を以下に示す。										
		<table><tr><th>母屋 間隔</th><th>鋼板製垂木 の間隔</th><th>サイズ (板厚×高さ)</th></tr><tr><td>606mm</td><td>606mm以下</td><td>1.6×15 又は同等以上</td></tr><tr><td>910mm</td><td>455mm以下</td><td>1.6×20、2.3×15 又は同等以上</td></tr></table>	母屋 間隔	鋼板製垂木 の間隔	サイズ (板厚×高さ)	606mm	606mm以下	1.6×15 又は同等以上	910mm	455mm以下	1.6×20、2.3×15 又は同等以上	
母屋 間隔	鋼板製垂木 の間隔	サイズ (板厚×高さ)										
606mm	606mm以下	1.6×15 又は同等以上										
910mm	455mm以下	1.6×20、2.3×15 又は同等以上										
金属製母屋（鉄骨）		鋼板製垂木が設置されていない場合、C-100×50×2.3同等以上とし、 606mm 以下の間隔で金属製母屋が設置されていること。										
地表面粗度区分		Ⅲ又はⅣの地域										
基準風速		38m/s 以下の地域（施工区分は $30\sim 32\text{m/s}$ ・ 34m/s ・ $36\sim 38\text{m/s}$ で分割しているので注意。）										
設置高さ		屋根材別設置基準 P05〔設置可能建物高さ〕にて規定。 （屋根材によって規定値が異なるため注意。）										
設計用 水平震度	各部に生じる水平震度	$K_H=1.0$										
	地震地域係数	$Z=1.0$										

※野地板・垂木は、上記条件に加え地域の条件（暴風・多雪等）を考慮した標準的な構造であること。

2 設置不可条件

野地板及び垂木に雨漏りの形跡がある屋根
野地板がALCパネルの場合
屋根表面が著しく劣化・腐食（赤錆・破損等）している場合
海岸より飛散した海水が直接かかる地域、または海岸線より概ね 500m 以内の地域
振動や衝撃を常時受ける場合
腐食性の物質がかかる地域

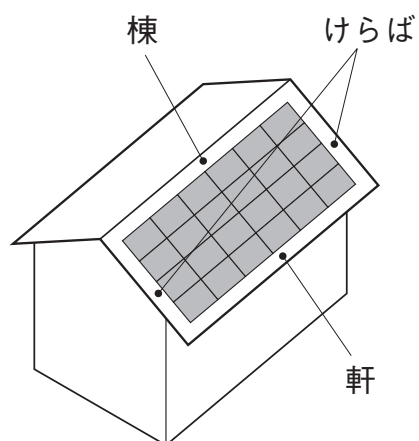
設置条件（架台共通）

③ 屋根への設置範囲

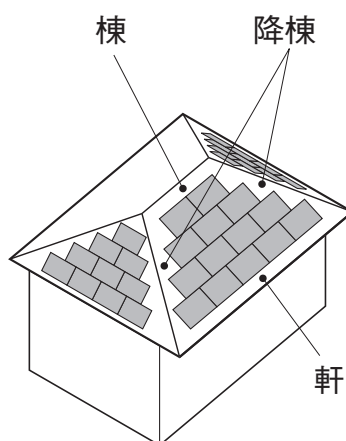
下表の範囲及び図の示す範囲には設置できません。

【縦葺(立平葺)】

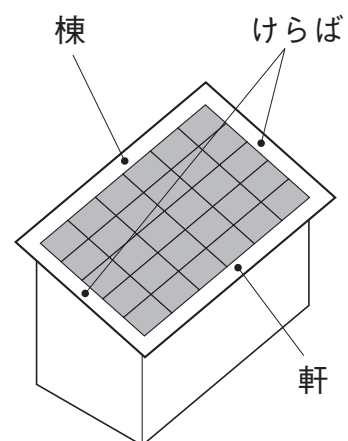
部位	除外範囲
軒	300mm
棟	
けらば・降棟	



(切妻屋根)



(寄棟屋根)



(片流れ屋根)

屋根材別設置基準

【1】立平葺

1 使用できる形状

- ・立平葺（立ハゼ葺）

【設置可能建物高さ】

8m 以下

【設置可能建物高さ】

10m 以下

2 屋根形状詳細及び適合製品

※ハゼ高さ、屋根の働き巾をお調べください。

立ハゼ葺（立平葺）		嵌合（かんごう）式立平	
製品名	D-SWATⅡ 嵌合立平H30 D-SWATⅡ 嵌合立平H30 シングル	製品名	D-SWATⅡ 嵌合立平H30 D-SWATⅡ 嵌合立平H30 シングル

3 設置基準

●屋根仕様

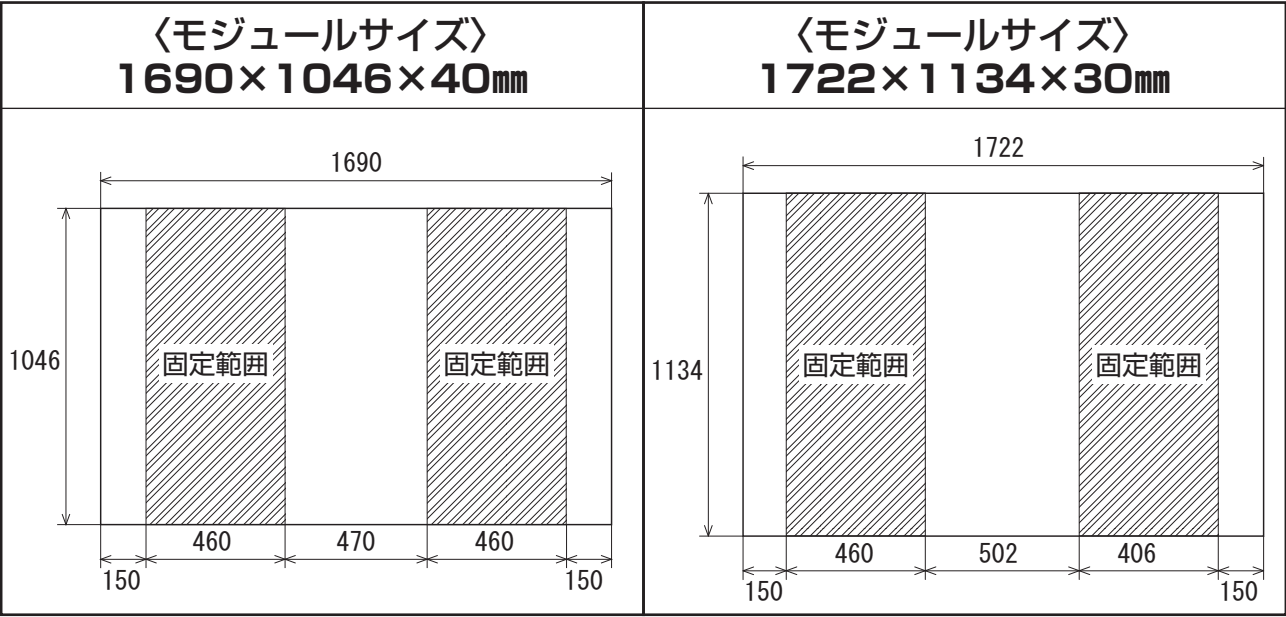
板 厚	0.35mm以上
材 質	ガルバリウム鋼板、GLカラー鋼板、カラーステンレス

●設置不可条件

- ※銅板製の屋根材
- ※キャップ式の屋根材

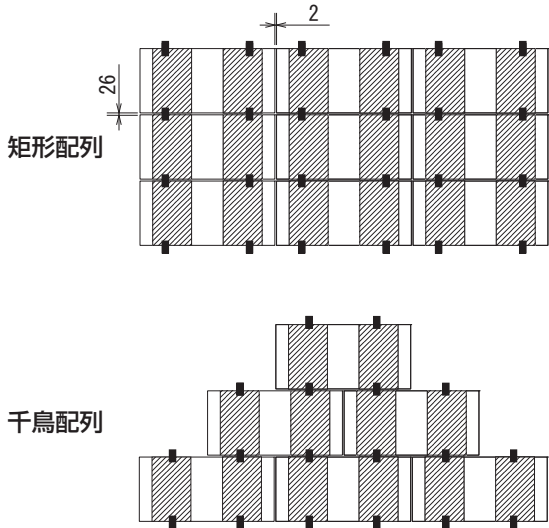
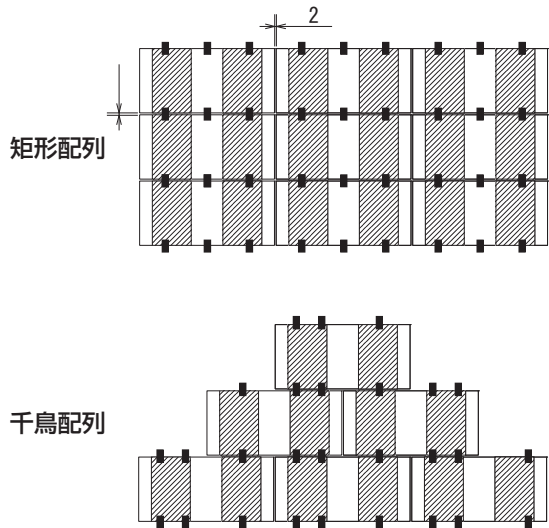
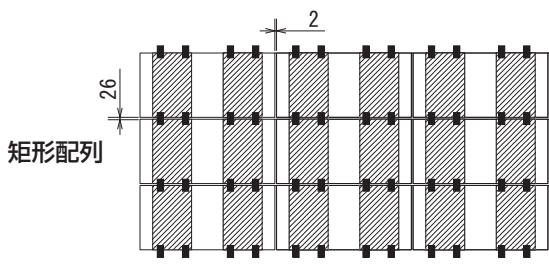
太陽電池モジュールの固定範囲

モジュールを固定する金具の位置は、下図の取付範囲内で固定してください。



太陽電池モジュールの固定範囲

施工区分（2点支持施工・3点支持施工・4点支持施工）はモジュールサイズ（面積）によって適合しない場合があります。事前にご確認ください。

2点支持施工	3点支持施工
モジュール1枚に対し、上下金具各2ヶ固定。 左右すき間：2mm／上下すき間：26mm  矩形配列 千鳥配列	モジュール1枚に対し、上下金具各3ヶ固定。 左右すき間：2mm／上下すき間：26mm  矩形配列 千鳥配列 ※モジュールに対し、両端の金具のみ斜線部の範囲内とします。（中間の金具は除く）
4点支持施工	
モジュール1枚に対し、上下金具各4ヶ固定。 左右すき間：2mm／上下すき間：26mm  矩形配列 千鳥配列 千鳥配列 設置不可 ※モジュールに対し、両端の金具のみ斜線部の範囲内とします。（中間の金具は除く）	

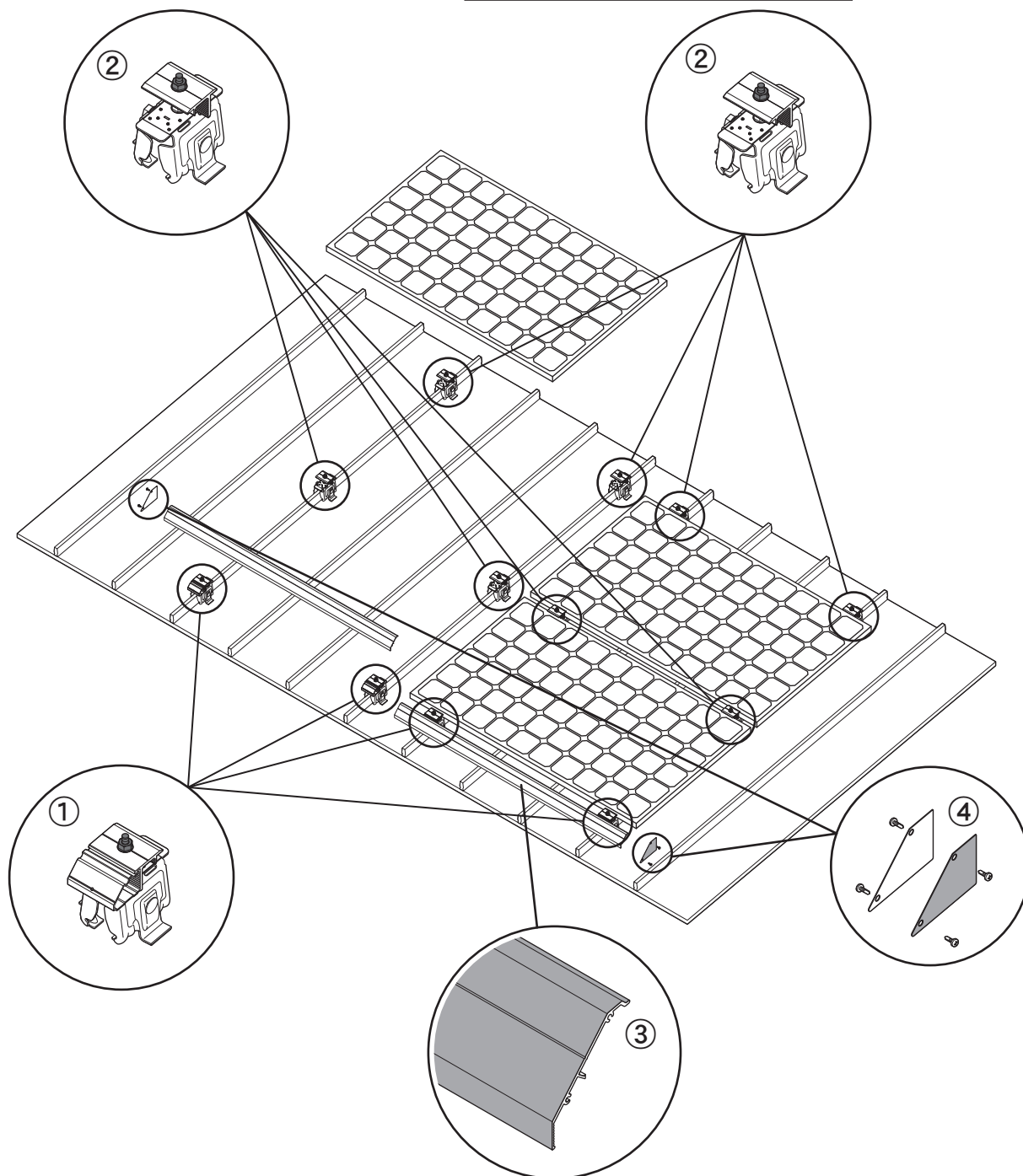
架台拾い出しの例（化粧カバー有り）

嵌合立平30 シングルの例

モジュール：1690×1046×40mm

レイアウト：2段×2列

施工区分：2点支持施工

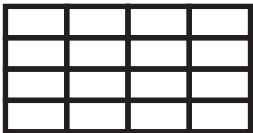
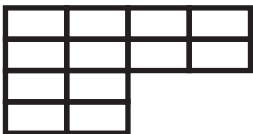
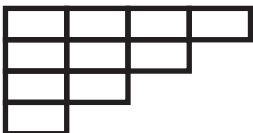
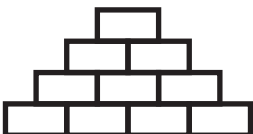
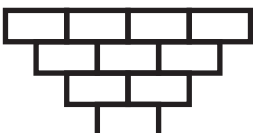
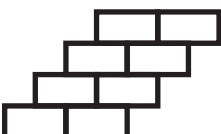
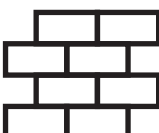


架台拾い出し一覧

No.	品 名	数量
①	D-SWAT II 嵌合立平H30 シングル 化粧カバー用 H40	4セット
②	D-SWAT II 嵌合立平H30 シングル 中端兼用 H40	8セット
③	化粧カバー L1690	2本
④	化粧カバー用サイドキャップ ブラック (2枚入)	1セット

化粧カバーの設置可否の例

モジュール配列による化粧カバーの設置可否は下表を参照してください。

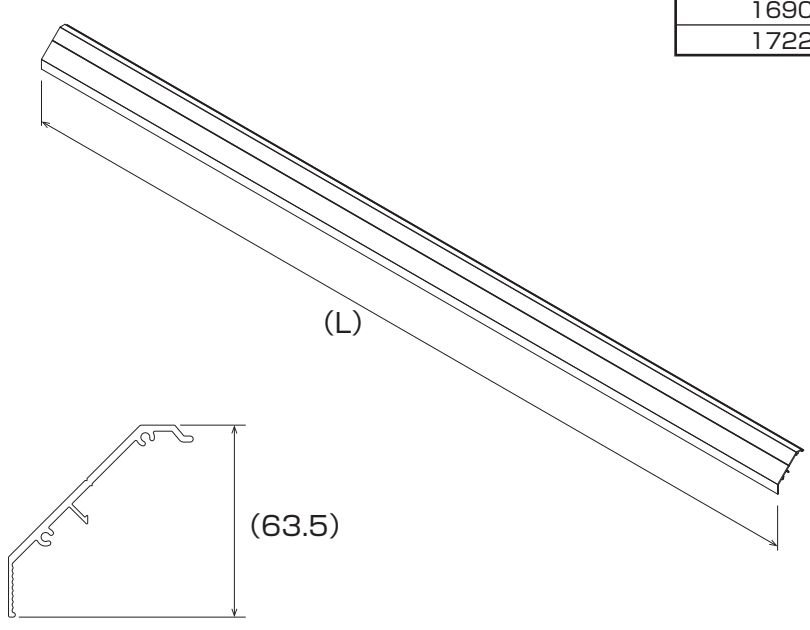
配列型	モジュール配置例	化粧カバー
		立平屋根
矩形配列	一般的な矩形型 	○
	軒先が段違いな矩形型 	○
	その他異型の矩形型 	○
千鳥配列	軒先が水平な千鳥型（ピラミッド型） 	○
	左右対称の逆千鳥型（逆ピラミッド型） 	×
	片側だけの千鳥型（階段型） 	×
	その他異型の千鳥型 	×

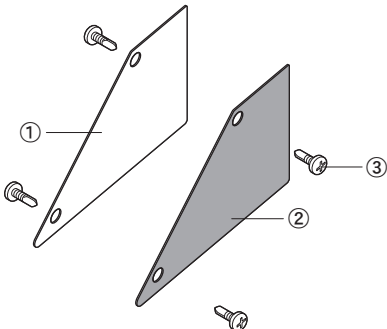
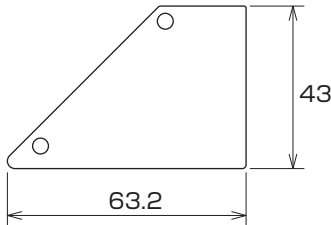
⚠ 注意

墨出し位置及び金具納まり位置は、事前に図面検証を行い確認してください。

部材内容（化粧カバー用追加部材）

1 化粧カバー

コード	
製品名	化粧カバー L■■■
(アルミ製)	
	
適合表	
(L)	対応モジュールサイズ
1690	1690×1046×40mm
1722	1722×1134×30mm
⚠ 注意 P13の設置可否を必ずご確認ください。	
※化粧カバーは、モジュール厚に関係なく取付可能です。	

コード				
製品名	化粧カバー用サイドキャップ ブラック (2枚入)			
(GLカラー鋼板)				
				
番号	名 称	規 格	数量	
①	化粧カバー用サイドキャップ (左)		1	
②	化粧カバー用サイドキャップ (右)		1	
③	テクスビス (頭黒)	M4×13	4	
				
【断面形状】				

部材内容

注意! 押え金具の色はモジュールを問わず全て**ブラック**になります。

品番

DS2-KT30S-□□M

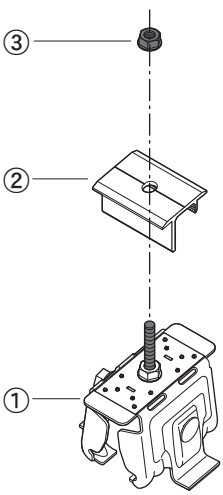
(□□は、H30・H40のいずれか)

製品名

D-SWATⅡ 嵌合立平H30 シングル 中端兼用 ※H30・40

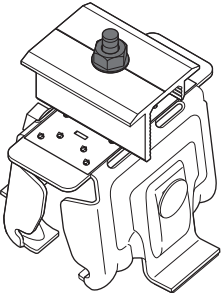
(高耐食鋼板製)

③



番号	名 称	規 格	数 量
①	嵌合立平H30 シングル		1
②	押え金具 (中間・端部兼用)		1
③	D-LOCKナット (黒) ※	M8	1

※KSGメッキ+黒ラスパートになります。



品番

DS2-KT30S-□□K

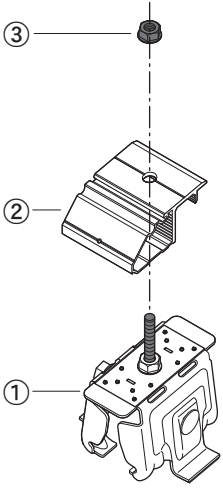
(□□は、H30・H40のいずれか)

製品名

D-SWATⅡ 嵌合立平H30 シングル 化粧カバー用 ※H30・40

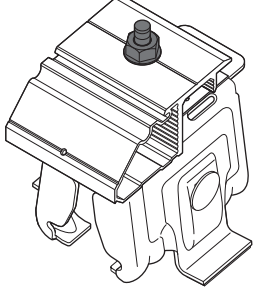
(高耐食鋼板製)

③



番号	名 称	規 格	数 量
①	嵌合立平H30 シングル		1
②	押え金具 (化粧カバー用)		1
③	D-LOCKナット (黒) ※	M8	1

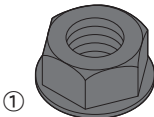
※KSGメッキ+黒ラスパートになります。

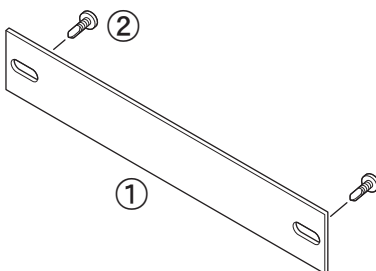


部材内容

注意! 押え金具の色はモジュールを問わず全て**ブラック**になります。

3 オプション

品番			
製品名	KSGメッキ+黒ラスパート D-LOCKナット M8		
(KSGメッキ+黒ラスパート)			
			
(1袋100ヶ入)			
番号	名 称	規 格	数量
①	D-LOCKナット	M8	バラ

品番	PD-PAS		
製品名	パネル間アースプレートセット（端部用）		
(アルミ) 			
番号	名 称	規 格	数量
①	パネル間アースプレート	t=1.8	1
②	テクスビス（頭黒）	M4×13	2

施工前の準備

■必要な機材・工具

機材・工具

[墨出し・マーキング作業]

- ☐ 赤鉛筆
- ☐ 油性インキ
- ☐ 水糸
- ☐ 墨つぼ（チョークライン）
- ☐ チョーク
- ☐ 巻尺

[金具取り付け・組立作業]

- ☐ 荷揚げ用機材（梯子型運搬機械など）
- ☐ +・ードライバー
- ☐ 充電式インパクトレンチ
- ☐ 電動ドライバートルクの設定管理が可能なもの
- ☐ トルクレンチ
- ☐ 六角ソケットビット（☐ 対辺 13 mm）

※長さは 60 mm 以上のロングタイプを推奨

電気配線

- ☐ ニッパー
- ☐ 電工ナイフ
- ☐ 圧着ペンチ
- ☐ ペンチ
- ☐ +・ードライバー

出力測定器具

- ☐ テスター（直流電圧レンジ 400V 以上）・アーステスター

作業保護具

- ☐ 軍手または皮手袋など
- ☐ 保護帽（使用区分：飛来・落下物用、墜落時保護用を推奨）
- ☐ 安全帯
- ☐ 保護メガネ
- ☐ 地下足袋または底裏に滑り止めが付いた靴

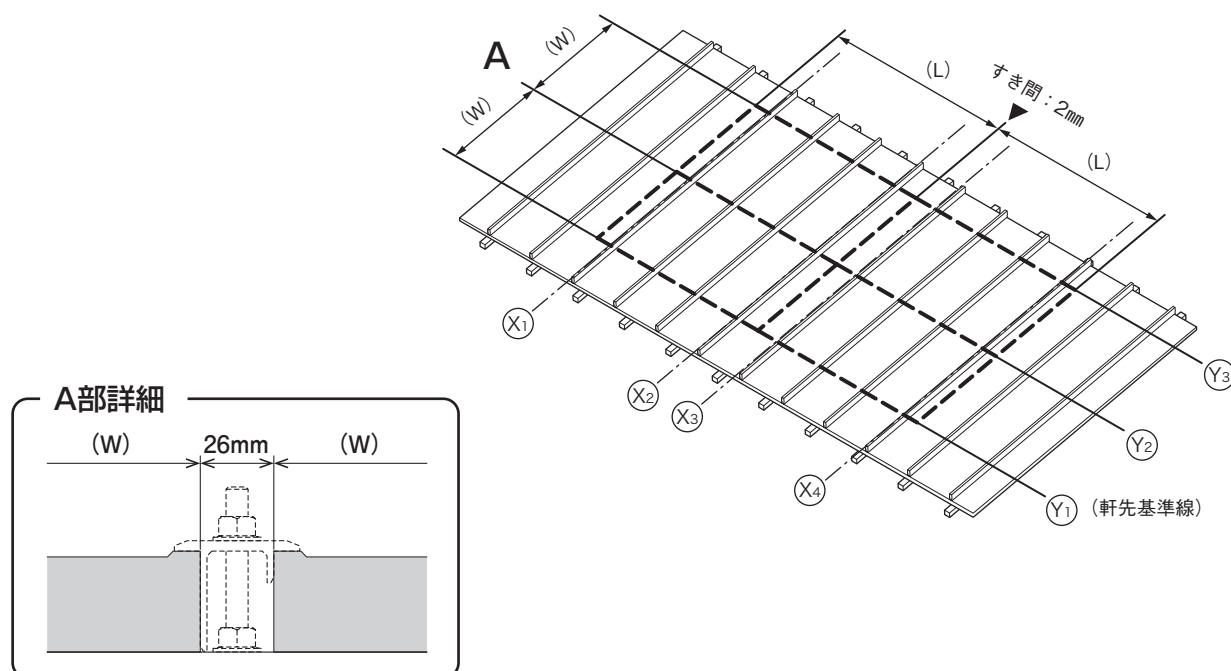
※その他必要に応じて準備してください。

施工手順

【1】立平葺

1 墨出し

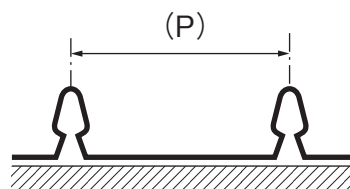
立平葺の場合



- 1 レイアウト図に従い、モジュールラインを墨出しをします。
 - ① Y₁ (軒先基準線) は、ハゼの真上となります。
 - ② Y₁ (軒先基準線) から棟側方向へモジュール巾(W)+26 mmピッチで墨出しします。
 - ③ 横方向にモジュール長さ(L)+2 mmピッチで墨出しします。

⚠ 注意

各屋根のハゼのピッチ(P)は、屋根のタイプや商品によって異なるため、事前にピッチの確認を行い、レイアウト図内でハゼの位置と納まりを確認してください。(下図参照)

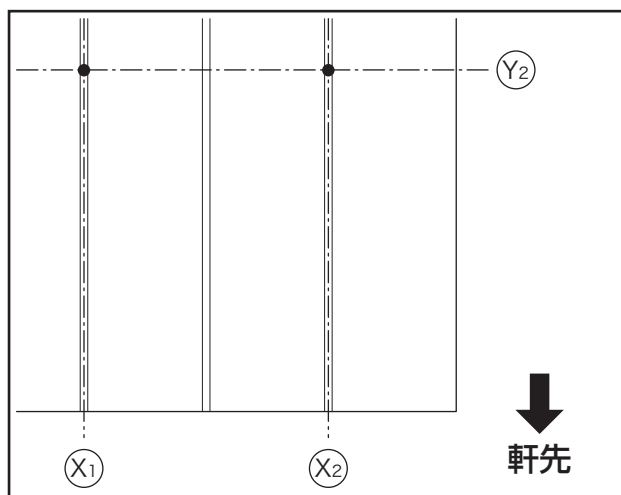


- 2 金具の位置(X₁ ~ X₄...)の墨出しをします。この際、モジュールの固定範囲を両端に固定するラインについては、必ず、モジュール固定範囲を通るようにしてください。(P06、07 の「太陽電池モジュールの固定範囲」を参照してください。)

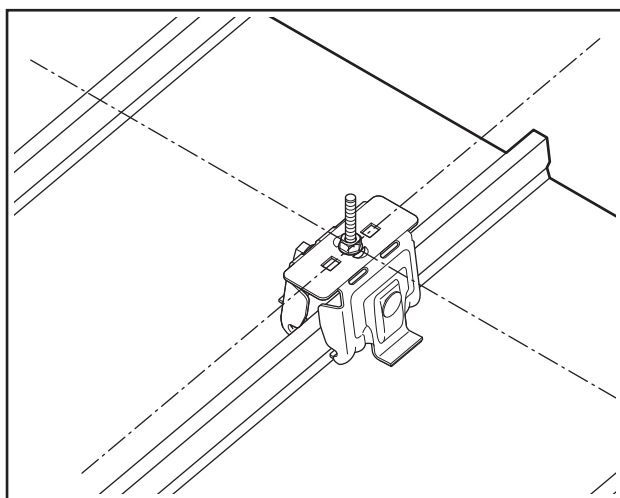
施工手順

【1】立平葺（立平30 シングル）

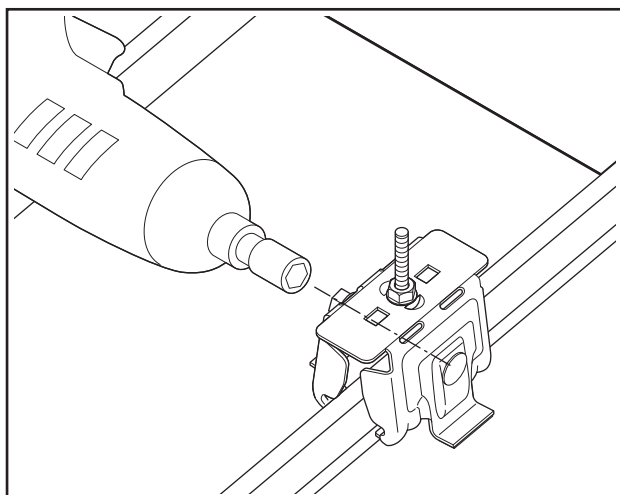
2 屋根材への取付



①墨出ししたXラインとYラインの交点を確認します。



②墨出し交点の位置に金具の上ボルトの中心が合うように仮置きをしてください。



③インパクトレンチなどで本体側面前後のナットを仮締めします。金具の傾きやズレがないことを確認し、ナットを本締めします。

トルク目安…………… 20～25N・m

ソケットサイズ…… 13mm

⚠ 注意

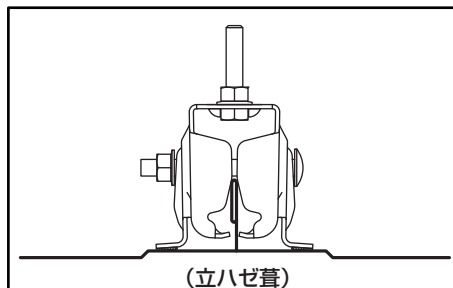
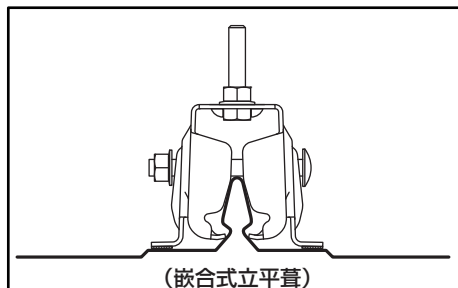
- 締め過不足にご注意ください。トルクレンチでトルクを確認してください。

施工手順

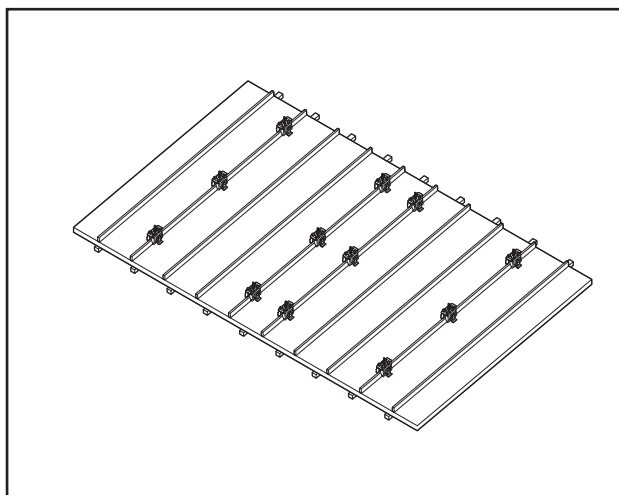
【1】立平葺（立平30 シングル）

⚠ 注意

ハゼ部の納まりについて



D-SWAT II 嵌合立平H30 シングル



④他、全ての位置について、①～③の手順で金具を設置してください。

⇒続いて押え金具の取り付けを行います。
P28を参照してください。

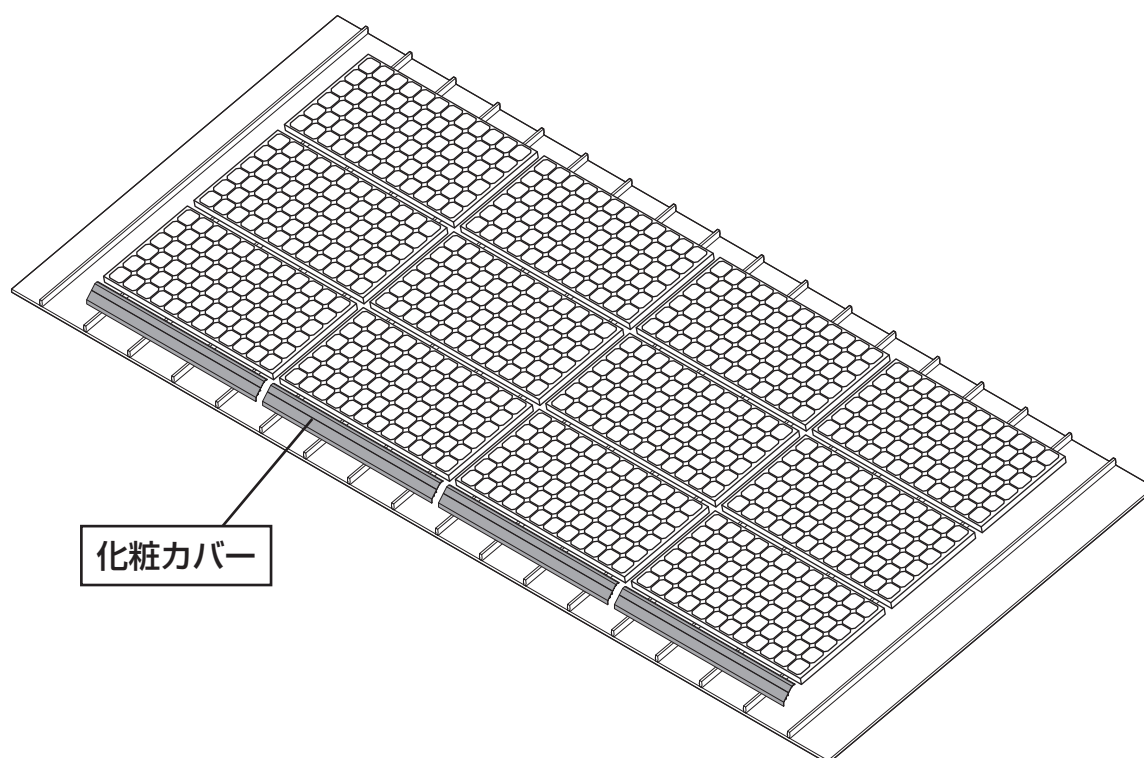
化粧カバーの適用範囲

1 適用範囲

化粧カバーの適用範囲は下表の通りとなります。
ただし、この適用範囲は、D-SWATⅡ設置基準書の「積雪・勾配に対する施工区分」各表の設置条件内に限ります。

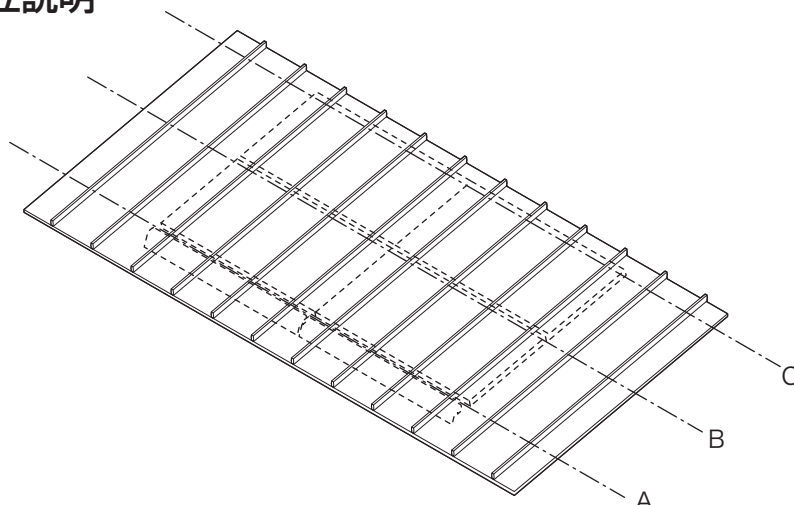
対象製品	適用範囲	
	屋根勾配	垂直積雪量
化粧カバー	制限なし	99cm以下

2 設置例



太陽電池モジュールの取付方法（化粧カバー有り）

1 セット部品の組立説明



A部：軒先1段目（化粧カバー有り）

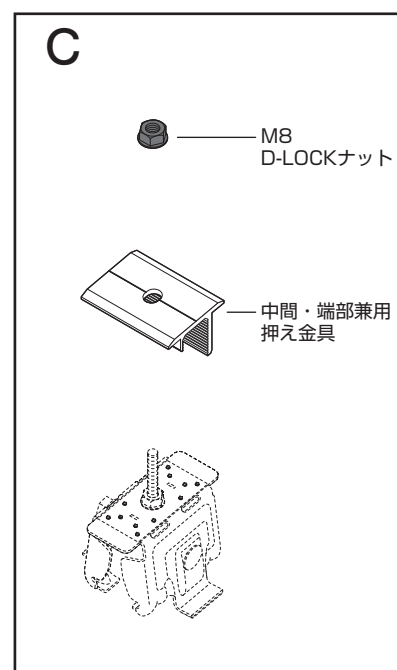
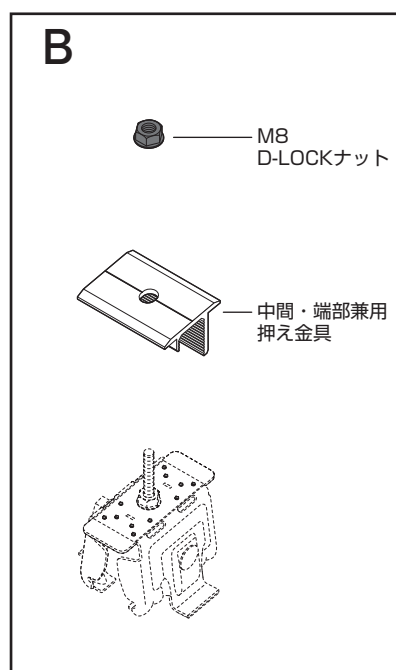
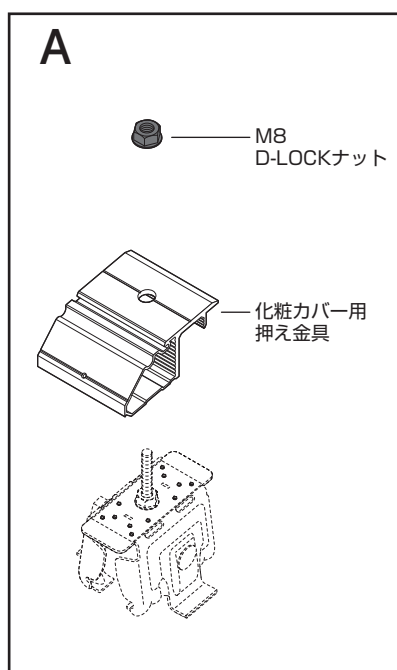
固定した本体金具に、化粧カバー用押え金具を、モジュールを押え込むようにセットし、M8 D-LOCKナットで締め付けてください。

B部：モジュール間

固定した本体金具に、中間・端部兼用押え金具を、モジュールを押え込むようにセットし、M8 D-LOCKナットで締め付けてください。
※押え金具の向きにご注意ください。

C部：棟側

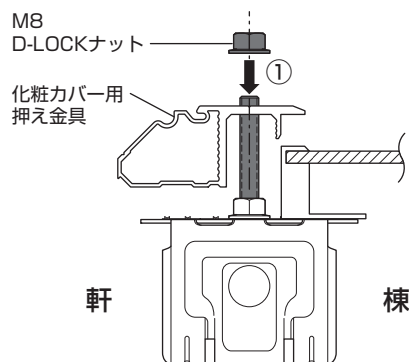
固定した本体金具に、中間・端部兼用押え金具を、モジュールを押え込むようにセットし、M8 D-LOCKナットで締め付けてください。
※押え金具の向きにご注意ください。



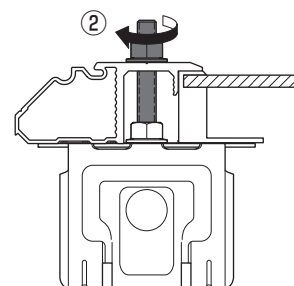
太陽電池モジュールの取付方法（化粧カバー有り）

2 太陽電池モジュールの取付手順

(1) A 部(軒先 1 段目)の取付手順 … 軒先 1 段目のモジュールは以下の手順で取付します。

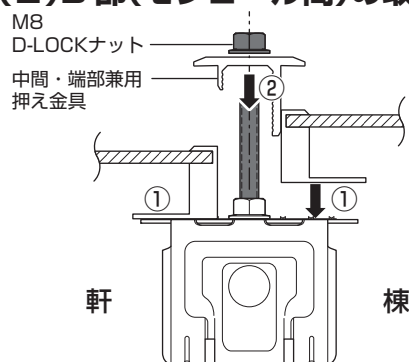


① 太陽電池モジュール枠上辺を化粧カバー用押え金具で押えます。同時にM8D-LOCKナットで仮締めします。

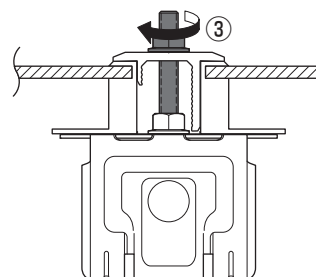


② 前工程で組み立てたM8D-LOCKナットを本締めします。
(締め付けトルク目安…約 15N・m)

(2) B 部(モジュール間)の取付手順 … 2 段目以降のモジュール間は以下の手順で取付します。

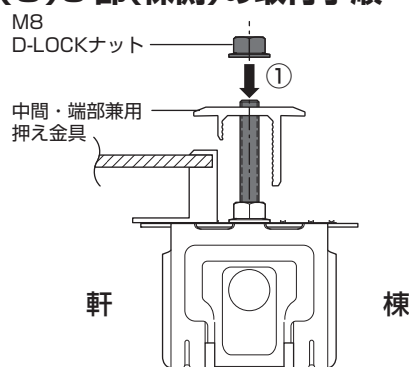


① 本体プレートの上に太陽電池モジュールを仮置きします。
② 太陽電池モジュール枠上辺を中間・端部兼用押え金具で押えます。押え金具の向きにご注意ください。同時にM8D-LOCKナットで仮締めします。

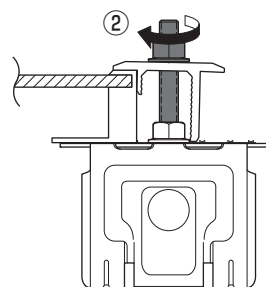


③ 前工程で組み立てたM8D-LOCKナットを本締めします。
(締め付けトルク目安…約 15N・m)

(3) C 部(棟側)の取付手順 … 棟側(最上段)のモジュールは以下の手順で取付します。



① 太陽電池モジュール枠上辺を中間・端部兼用押え金具で押えます。押え金具の向きにご注意ください。同時にM8D-LOCKナットで仮締めします。



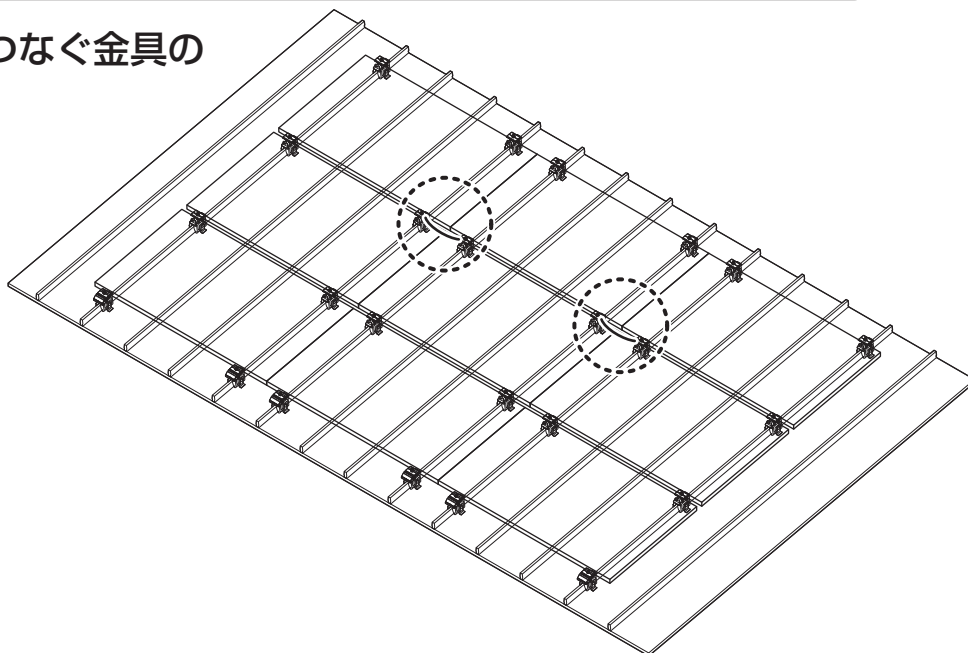
② 前工程で組み立てたM8D-LOCKナットを本締めします。
(締め付けトルク目安…約 15N・m)

太陽電池モジュールの取付方法（化粧カバー有り）

B' 部：パネル間をアース線でつなぐ場合

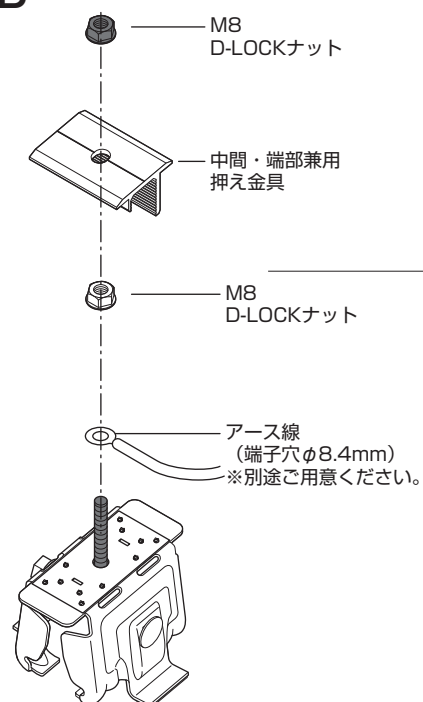
- 棟側と軒先1段目以外の、任意の段のモジュール同士全てを、金具を利用してアース線でつなぐ必要があります。
- アース線（端子穴φ8.4mm）は付属しておりませんので、別途ご用意ください。

アース線でつなぐ金具の位置の例



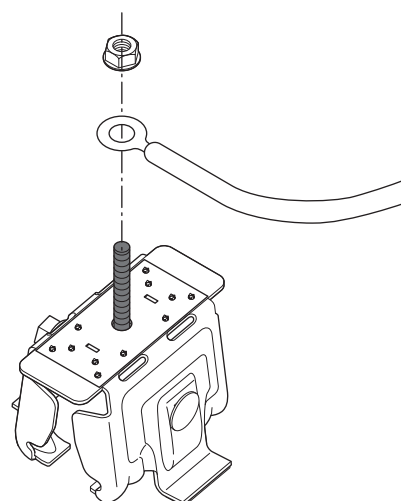
固定した金具のM8D-LOCKナットをはずし、アース線（端子穴φ8.4mm）を仮置きしてM8D-LOCKナットで締め付けます。（締め付けトルク：15N・m）
 続いて、中間・端部兼用押え金具を、モジュールを押さえ込むようにセットし、M8D-LOCKナットで締め付けてください。（締め付けトルク：15N・m）

B'



⚠ 注意

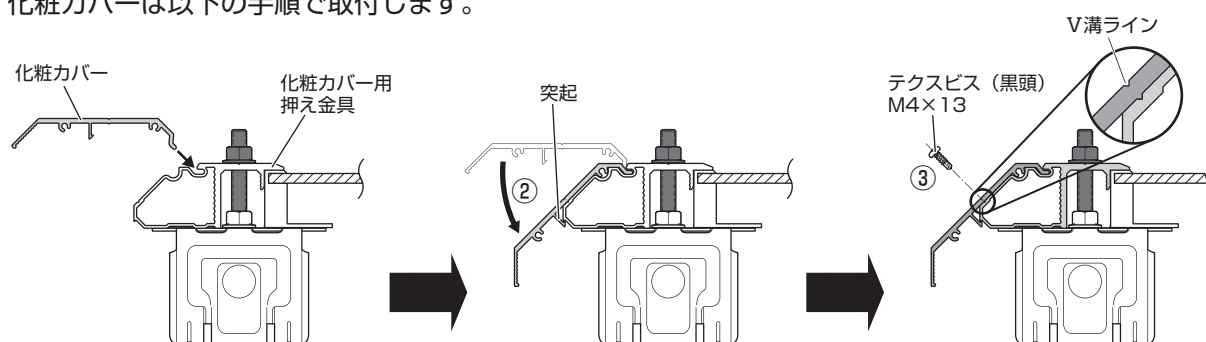
- C種またはD種接地工事が必要です。
- アースを取らないと感電の恐れがあります。
- アース工事は有資格者が行ってください。



太陽電池モジュールの取付方法（化粧カバー有り）

③ 化粧カバーの取付手順

化粧カバーは以下の手順で取付します。



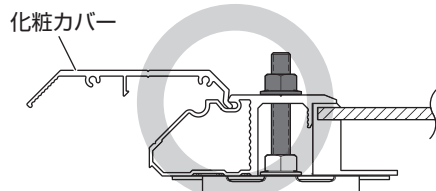
①化粧カバー用押え金具の上部の溝に化粧カバーの端を挿入します。※1

②挿入した化粧カバーを下方向に回転させ、化粧カバーの突起を化粧カバー用押え金具につっかけてください。※2

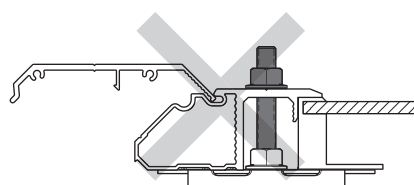
③化粧カバーのV溝ラインに付属のテクスビス（黒頭）M4×13を使って、化粧カバー用押え金具と固定してください。※3

⚠ 注意

※1 化粧カバーの向きに注意してください。
誤った取付をすると設置が出来ない、または落下の恐れがあります。

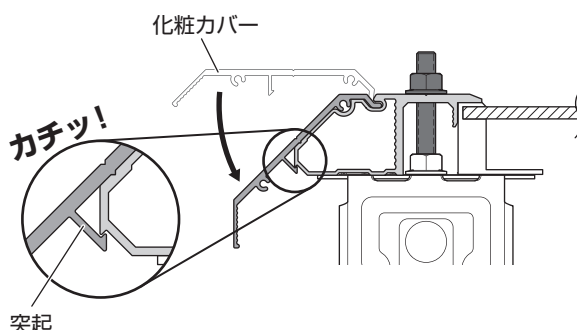


正しい取付

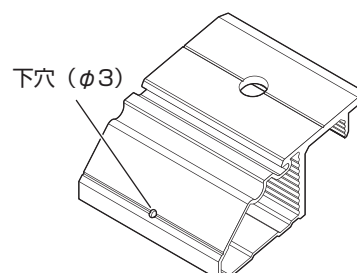


誤った取付

※2 カチッと音がするまで化粧カバーを回転してください。
突起が引っかかっていることを確認してください。

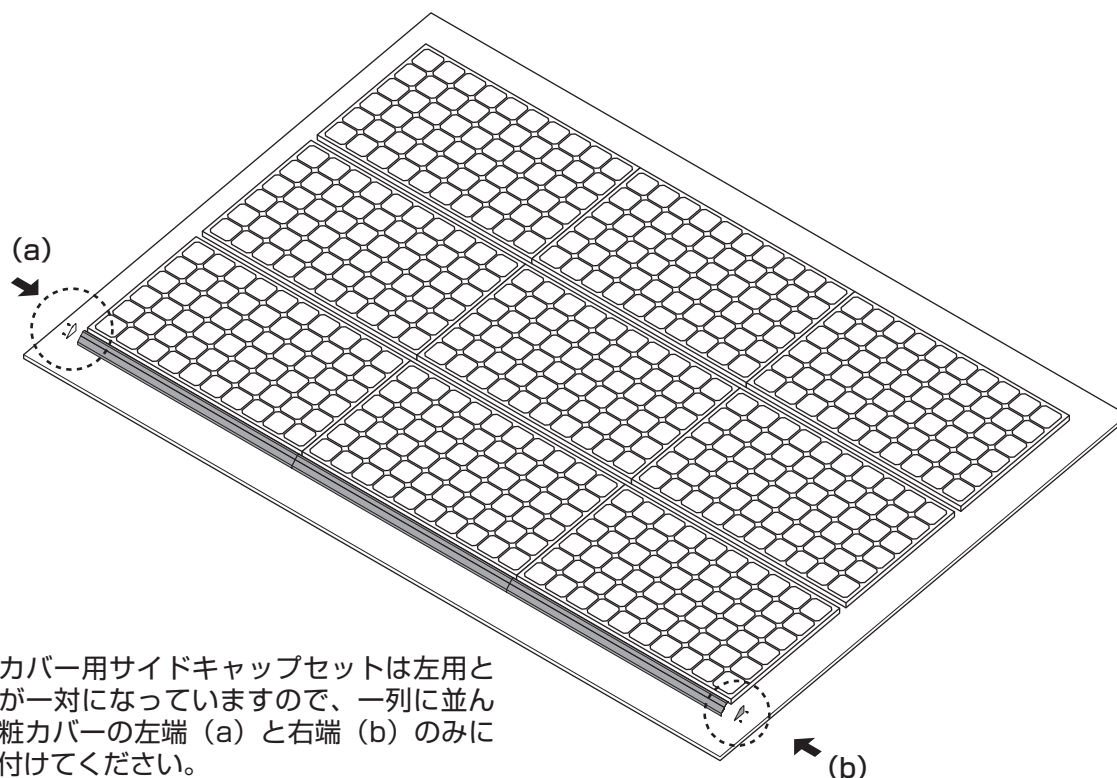


※3 化粧カバー用押え金具には、下穴（φ3）が開いています。
この下穴にテクスビスが入るように化粧カバー用押え金具の中心を狙って打ち込んでください、

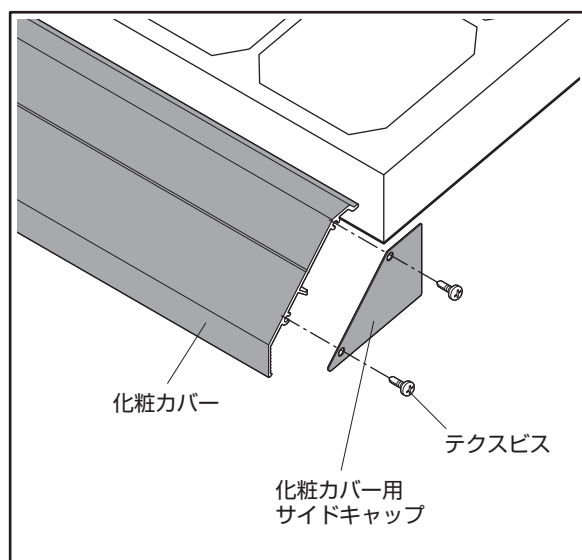


太陽電池モジュールの取付方法（化粧カバー有り）

4 化粧カバー用サイドキャップの取付け



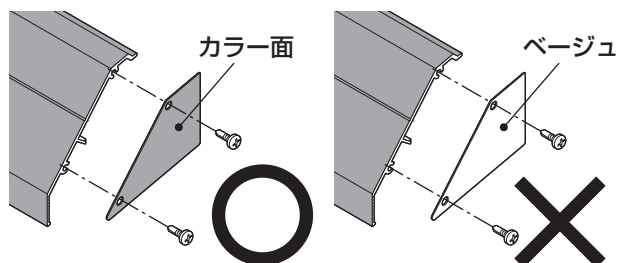
化粧カバー用サイドキャップセットは左用と右用が一對になっていますので、一列に並んだ化粧カバーの左端（a）と右端（b）のみに取り付けてください。



化粧カバー用サイドキャップを付属のテキスビス（頭黒）M4×13×2本で化粧カバーを取付けてください。

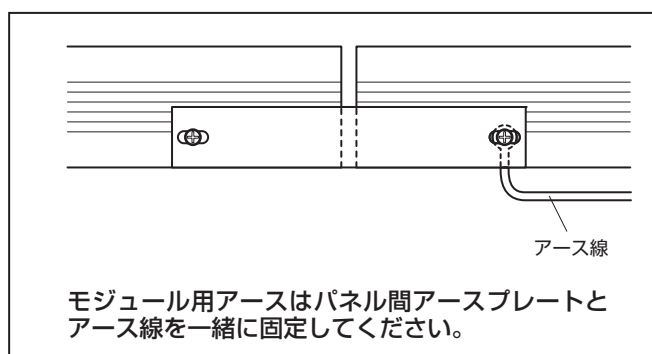
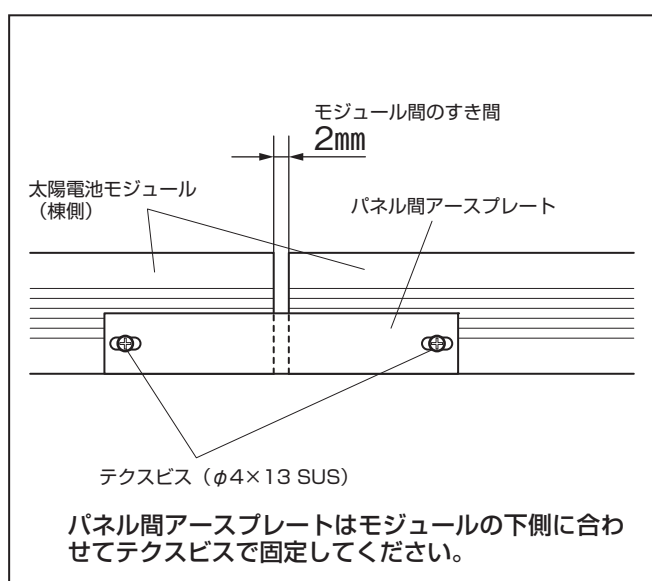
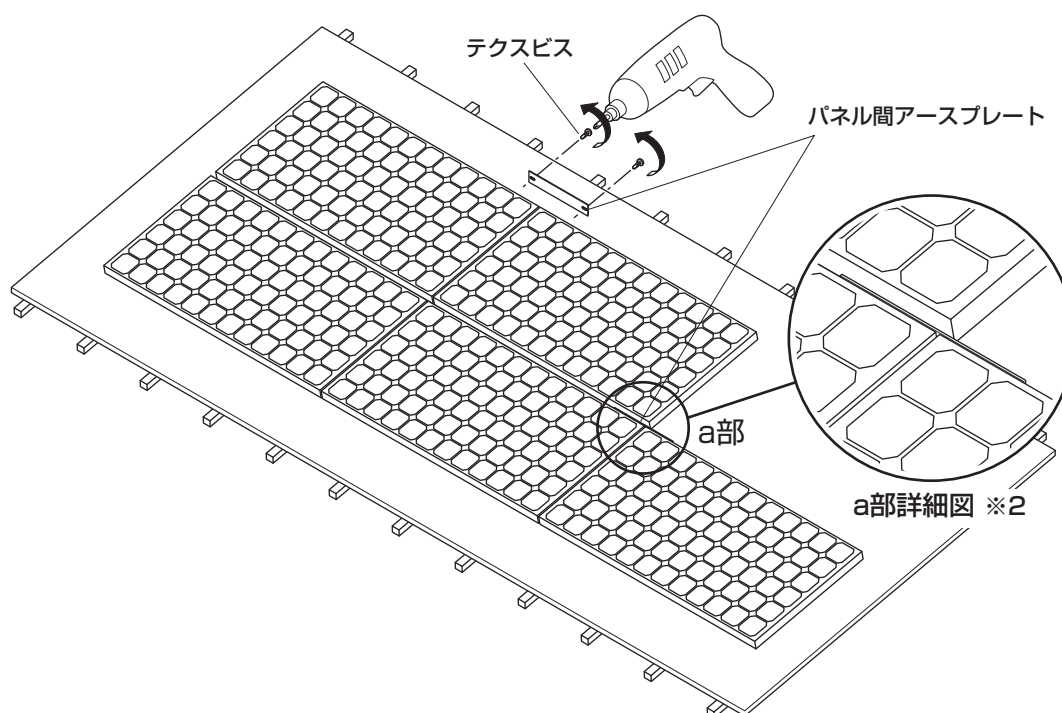
⚠ 注意

化粧カバー用サイドキャップは、カラー面（ブラック）が片面なので、カラー面が必ず外側になるように取り付けてください。



オプション説明

パネル間アースプレートの取付方法



パネル間アースプレートは、棟側及び列方向の導通が可能な位置に取付を行ってください。パネル間アースプレートと太陽電池モジュールの棟側側面の下端を合わせて、しっかりと押えた状態で長穴2カ所に付属のテクスビス2本を太陽電池モジュールにもみつけて取付、固定します。

この時、テクスビスが太陽電池モジュールの枠に組み付けてあるビスに干渉しない位置に取付を行ってください。

- ※1 パネル間アースプレートの取付は必要な所のみで構いません。通常は余りが出ます。
- ※2 太陽電池モジュールの棟側が段違いとなる場合、設置可能な位置に取付を行ってください。

⚠ 注意

- C種またはD種接地工事が必要です。
- アースを取らないと感電の恐れがあります。
- アース工事は有資格者が行ってください。

⚠ 注意

パネル間アースプレートの取付ビス位置はモジュール両端から50mm以上離してください。両端から50mm以上離すことができない場合は別途アース線（現場調達）を指定箇所に取り付けてください。

